

たい。なぜ子どもにとってよりよい環境の整備、保育や教育の充実、向上から入らないのか。

加西では現在のところすべてを民営化することが適切な方法であると考えているのか。民間移譲するならば、手順の中に保護者との協議を持ってもらいたい。現在年次を追ってミニ幼児園計画が説明されているが、一方で早期の民営化が言われている。加西の幼保は一体どのような方向性で、最終ゴールをどこにおいているのか。

答 タウンミーティング等に参加するがぎり、我々と住民の意識、意向との間にギャップがあるのは事実です。ただ、11校体制を存続させ、保育所、幼稚園をそのままにした状態で改善、改良を加えていくことは無理で、保育所については耐震診断さえできていない状況です。基本的には民間園に委ねていくのはよろしいかと思いますが、すべてを民営化することにはためらいがあり、ごく最小限の公立幼児園を残さざるを得ないという考え方でおります。民営化の手順の中に民意を入れることは、そのとおりだと考えていま

魅力ある加西市の教育について

別府 直 議員（新政会）

問

小・中一貫教育に対してどのように考えているか。

メリット、デメリットは。加西市においては小・中一貫を持つてくるのはどうか。魅力ある学校づくりでは、小・中一貫は必要だと思う。まず地域で合意形成できたところから小・中一貫教育を導入してはどうか。

答

教育環境整備について、建物はあるが追いついていないことは、子どもにとって不幸ではないか。学校再編等をした場合、夏場のクーラー等の勉強できる環境が実現できるのか。小・中一貫教育の長所は、小学校教員のきめ細かな指導、中学校教員の専門性を調和的に生かすことができる、小・中職員によるTT授業(注)ができ

る、個に応じた指導が充実する、9年間を見通した継続性のある指導ができる、中一ギャップを克服できる、教職員の意識、魅力、教師力アップに資すること

ができることで、短所は、中学校デビューができない、9年間の長さで中だるみができることが考えられる、年齢差、体力差、知識差の大きな児童・生徒を一緒に扱うことの複雑さ等が挙げられます。形として連携型でも一体型でも、小・中一貫を進めていくことで質の高い公教育を実現してこそ、転入人口、定住者を増やすことができると思っています。合意形成ができたところや、誘致に熱心なところから結果的に先行的に着手することになる事態も考えています。

教育環境整備について、建物あって中身なしというのは、非常に的確な言葉だと思います。地球温暖化を考えるとエアコンは必需品だと思っており、新しい施設を整備するときにはエアコンを必需品として設置し、場合によっては床暖房も入れ、その反面、屋上にはソーラーパネル、温水ヒーターも設置し、自然の熱源を有効活用して、それ

学校施設遊具の安全性と価格

土本昌幸 議員（公明党）

問

厳しい財政状況の中、いまほど少ない経費で効果を上げることが要求されるとき

はない。子どもたちが利用するものは安全第一が当然だが、遊具関係の流通については大きく分けて二つの財団法人を窓口として行われ、同等品で比較すると価格にかなりの差がある。価格を考慮した品質について、どのように考えているのか。同等品が本当に使えるかを吟味する必要があると思うがどうか。

いままで何回か大きな事故が起きていたが、メンテナンスに不備があったことが、一番の原因と考える。検討する必要があるのではないかと。品質に対する考え方は、まずは安全第一で、日本公園施設業協会が作成している遊具の安全性に関する基準に適合していること、保証がしっかりしていることを条件としてつけています。同等品については担当課では精査は非常に困難と考

えますが、今後においては安全面について問題がないと判断すれば使用は差し支えないと考えます。公共調達原則で、低廉で良質な工事というのは基本です。今後技術職員の研修会で議論をしたいと思っています。メンテナンスについて、定期検査も行わなければいけません。日常の職員による視認による点検検査も大事ですので、留意しながら進めたいと思います。

幼保一元化の説明会について

丸岡弘満 議員（東風会）

問

幼保一元化について西田田地区で説明会があった

が、お互いの意思や意見が合わない等が多々あり、また現在の施設状況や状態、駐車場の問題を抱え、今後十分に対応できるのか。

答

あんな老朽化したところにといいことがギャップの一番大きなところであり、それはいつも感じているところで、泉第3保育所は、保育所が数ある中で施設的によくないところ。その先をどう進めていくかは、一方でミニ幼児園づくりの要請、もう一つは施設の良

(注) ティーム・ティーチング授業。同室複数指導及び少人数指導のこと。